

魅力ある府立高校づくり推進

基本計画(仮称)

(中間案)



京都府教育委員会

目 次

第1章 基本的な考え方	
1 計画の趣旨	1
2 計画期間	2
3 計画の進め方	2
第2章 今後の府立高校の在り方	3
1 全日制課程の魅力化と配置等の在り方	
(1) 普通科・普通科系専門学科	3
(2) 職業学科及び総合学科	4
(3) 京都府立大学附属高校化	5
(4) 全日制高校の配置等の在り方	6
2 定時制・通信制課程の魅力化と配置等の在り方	9
3 柔軟な教育システムによる魅力化	
(1) 新しいスタイルの全日制高校	10
(2) 特別支援教育の充実	11
4 高校設置者間の協調・協議	12
5 学校施設等の整備	13
第3章 今後の入学者選抜の在り方	14

第1章 基本的な考え方

1 計画の趣旨

《計画策定の背景》

本府では、平成23年度以降、京都府教育振興プラン（平成23年1月策定）に基づき、長期的な展望に立って教育施策を総合的に推進し、府立高校の教育改革に関わる取組を計画的に実施してきた。

第1期京都府教育振興プランの策定以降、少子化をはじめとする社会情勢の変化や新型コロナウイルス感染症の影響など、子どもたちを取り巻く教育環境が急激に変化する中で、令和3年1月には、中央教育審議会答申において、「令和の日本型学校教育」の構築に向けた方針が示された。

こうした教育改革等の動向を受け、本府では令和3年度から令和12年度までの京都府の教育の目指すべき方向等を示した第2期京都府教育振興プランを策定した。また、同プランに掲げる基本理念や施策推進の視点のもと、令和4年度から令和13年度までの府立高校における基本的方向性や目指す将来像を示した「府立高校の在り方ビジョン」（以下、ビジョンという。）を策定した。

ビジョンにおいては、府立高校の果たすべき役割など基本的な考え方を明確にした上で、「魅力ある府立高校づくり」に向けた教育内容の充実と、それに向けた教育制度等の改革に関する目指す方向性を掲げている。

「府立高校の果たすべき役割」（ビジョン第2部第1章 基本的な考え方）

本府は地理的に見て南北に長く、人口の分布や交通の利便性などの生活環境が地域によって大きく異なる。すなわち、各府立高校を取り巻く環境も多様であると言える。

そうした地域の実情を踏まえつつ、府立高校においては、公教育の場として教育の機会を保障するとともに、選択肢の多様性を確保することを第一義的に捉え、幅広く多様な生徒を受け入れ、「すべての生徒が夢や希望を持ち、未来に向かっていきいきと学ぶことができる高校」を目指す。

《計画の策定》

本計画は、魅力ある府立高校づくりを実現するために、**ビジョンの第2部第3章に掲げる学校や課程・学科等の配置の在り方、入学者選抜制度をはじめとした府教育委員会が取り組む教育制度等に関する改革について基本的な方針を示すもの**である。

本計画の検討にあたり、令和4年11月に外部有識者による「魅力ある府立高校づくり懇話会」（以下、懇話会という。）を設置し、次の観点から意見を聴取した。

- ・多様な生徒のニーズに対応する各課程における役割や望ましい教育環境について
- ・全日制課程における学科の役割や望ましい配置について
- ・地域の実情等を踏まえた府立高校の在り方について

懇話会では、次の視点において、府立高校の在り方に関わる教育改革の必要性等について多岐にわたる御意見をいただいた。

【懇話会での主な意見の視点】

- ・南部地域と北部地域など地域の実情を踏まえつつ、幅広い生徒の様々なニーズに応えるとともに、果たすべき社会的役割に応じた魅力ある学校づくりを推進すること
- ・教育の質を確保し、活力ある学校づくりのために一定の学校規模が必要であること
- ・多くの生徒が入学する全日制普通科では、一層の特色化、魅力化を図り、中学生等に向けて明確に発信すること

2 計画期間

計画期間は、本計画の策定後からビジョンと合わせて令和13年度までとする。
なお、ビジョンの改定等により見直しを行うこととする。

3 計画の進め方

地域別等による実施計画を段階的に策定し、具体的な改革内容を明確にした上で、取り組むこととする。

なお、府内各地域において、本府地域振興計画や各自治体の様々な取組、まちづくりとの関係性などを踏まえ、必要に応じて自治体など関係機関と協議、調整を図るものとする。

第2章 今後の府立高校の在り方

高校教育においては、教育活動全般にわたり、生徒が集団の中で多様な考えに触れ、切磋琢磨することを通じて資質能力を育むために、一定規模の生徒集団による教育環境を整備することが重要である。一方で、地域の実情や在籍する生徒の実態に即した指導などを行うにあたって、小規模校や小集団による学びの形態が望ましい場合もある。

高校教育段階では、義務教育段階より一層、実社会との接続を見据え、多様な他者と関わり対話を通じて学びあうことで多くの経験を重ね、多様な考えや価値観に触れることを通じ、豊かな人間性や社会の一員として参画し貢献する意識等を育むことが必要である。

また、府立高校生を対象としたアンケート調査結果（以下、アンケート結果という。）からは、多くの生徒が学習指導・進路指導、学校行事や部活動、友人等との人間関係の構築に魅力を感じている。これら各学校の特色となる教育活動を一層魅力あるものに充実させていく必要がある。

今後の府立高校の在り方として、次の視点から、学校や課程・学科の配置見直しなどの高校教育改革を推進する。

- ・それぞれの地域で、各校の特色や役割等を明確にし、生徒の個性や能力、進路希望など幅広いニーズに応え、将来のキャリア実現につながる選択肢を確保していく。
- ・高校教育としての質の確保・向上のため、地域の実情に応じた魅力と活力ある教育環境を整備する。

Ⅰ 全日制課程の魅力化と配置等の在り方

(1) 普通科・普通科系専門学科

本府では、中学生の普通科志向を背景に、全国に比べて普通科及び普通科系のその他専門教育を施す学科（以下、「普通科系専門学科*」という。）の生徒数の割合が高く、職業学科及び総合学科の割合が低いといった特徴的な状況にある。

普通科においては、昭和60年度の高校教育制度改善により、類・類型を設定し、普通科の中で特色の細分化を図ったが、生徒のニーズの変化等を踏まえ、地域ごとに類・類型制度を発展的に解消してきた。平成26年度以降、府内全域で普通科として一本化した生徒募集を行い、入学後にコースを選択できる現行制度となっている。

【懇話会での関連意見】

- ・圧倒的に多くの生徒が普通科に入学している実態から、授業や教育内容などの教育活動の特色によって学校選択ができるように、普通科の特色化は進めていくべき

- ・中学生段階では、進学する目的や将来の進路選択が決まらないまま進学する生徒も多い
- ・普通科には、学校ごとに様々なコースがあり、また普通科系専門学科も混在し、中学生等にとっては違いが分かりづらいため、高校側から教育内容を明確に見せていくべき
- ・普通科のコース設定等は、高校卒業後の進学先での学びや、大学卒業後の仕事へのレディネス*につながる具体的な教育内容を明確にする必要がある
- ・本質的な普通科の特色化を進めるには、キャリア教育*を軸とした視点が必要

【基本方針】

- グローバル化、デジタル化等の社会変化に対して、各地域内における役割分担や機能強化等により、社会を牽引するリーダー人材の育成、地域と連携・協働した学び、基礎・基本的な学び直しなどの多彩な選択肢を提供する。
- 普通科系専門学科においては、探究活動等を通して、高度で特色ある専門的な教育内容を充実させる。
- 普通科の魅力化、特色化を一層推進するために、既設の普通科または普通科系専門学科・コースを見直した新しい普通科*（学際領域、地域社会に関する学科等）を各通学圏に設置する。

普通科系専門学科

専門教育を主とする学科（専門学科）のうち、職業学科（農業・工業等）以外の普通科系の学科。

レディネス

準備性（学習に対する心身の準備状態）。

キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を施す教育。

新しい普通科

令和4年度施行の法令改正により普通教育を主とする学科として、次の学科が設置可能となった。

- ・学際領域に関する学科 学際的・複合的な学びに重点的に取り組み、大学等との連携協力体制を整備。
- ・地域社会に関する学科 地域社会が有する課題や魅力に注目した実践的な学びに重点的に取り組み、地域の行政機関等との連携協力体制を整備。
- ・その他特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科 スクール・ミッションに基づく特色・魅力ある学びに重点的に取り組み、関係機関との連携協力体制を整備。

(2) 職業学科及び総合学科

職業教育を主とする学科（以下、「職業学科」という。）については、昭和60年度の高校教育制度改善以降、産業社会の進展に即応した魅力ある職業教育の推進に向け、専門的な教育内容や施設・設備の充実、職業学科単独校の設置、学科の適正配置などに努めてきた。

現在設置している各学科は、地域産業とのつながりが深く、市町村や企業、高等教育機関等と連携し、その分野を牽引する役割も果たしている。

また、総合学科については、全日制課程で2校、定時制課程で1校設置しており、幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択して学ぶことにより、一人一人の個性を生かした主体的な学習や、将来の職業選択も視野に入れた進路への自覚を深めることができる学習を推進している。

【懇話会での関連意見】

- ・中学生段階では将来の進路を描ききれない生徒が多く、職業学科を選択することは難しい側面もある
- ・中学生や保護者等には、職業学科・総合学科の教育内容、卒業後の進路状況や魅力が十分に伝わっていない
- ・大学や産業界の研究とも連携した価値を創造する学びの視点で、実社会で求められる実践的な能力を育てていく視点が必要である
- ・地域産業との連携を通して、将来を見据えたキャリア教育を行うことで、生徒自身がキャリアデザインを進め、卒業後の具体的な進学や就職につなげていくことが重要である

【基本方針】

- **職業学科及び総合学科設置校については、学科の再構成や募集定員の設定の在り方等を検討し、地域バランスや地域の魅力を考慮した学校、学科の配置とする。**
- **府産業教育審議会における議論のもと、産業教育の一層の魅力化を推進する。**
- **「府立高校産業教育デジタル化事業費」等によって充実させた設備を最大限活用し、実社会で通じる実践的な産業教育を推進する。**

(3) 京都府立大学附属高校化

現在、京都府立大学においては、大学の将来像や目指すべき教育研究体制の在り方を取りまとめた「新生・京都府立大学」改革プランに基づき、現行の生命環境学部を新たに農学食科学部、生命理工情報学部及び環境科学部の3学部にも再編する改革が、令和6年度を目途に進められている。

同プランでは、学部学科の再編とともに、高大連携と地域貢献の強化に向けた附属高校化が掲げられている。また、公立大学に求められる地域貢献として、地域に対して専門教育の門戸を開くこと、高校との関係を相互連携へと広げ「大学の知」を生かした教育プログラムの提供機会拡大を図っていくこととされている。

なお、現在、農林業系専門分野において京都府立大学と連携協定を結び、森林環境・

地域創生をテーマとした相互交流や、農業分野における実習施設の相互訪問や研究活動による高大連携プログラムを北桑田高校と農芸高校の2校で行っている。

【基本方針】

- 「新生・京都府立大学」改革プランに基づく大学改革に応じて、農林業系専門分野において附属高校を設置し、府立大学との相互連携を高度化させる。

(4) 全日制高校の配置等の在り方

府内公立中学校3年生数は、直近では昭和62年度の40,698人をピークに減少し続け令和4年度には19,144人と約半減している。一方で、府立高校の学校数はほぼ変わらない状況にある。

府立高校全日制課程の第1学年募集定員による学級数は、平成25年度選抜時には6学級から9学級の高校が中心であったが、令和4年度選抜時には5学級から7学級の高校へと中学校3年生数の減少に伴い府立高校全体で小規模化が進行している。

府内公立中学校卒業生数は、府内全域で今後も減少する見通しで、特に北部地域（口丹、中丹、丹後地域）において顕著な減少が見込まれる。

<南部地域（京都市・乙訓、山城地域）の状況>

- ・通学利便性が比較的高く、公立高校の他に私立高校が集積しており通学可能な範囲に多様な選択肢がある。
- ・多くの府立高校において、1学年6学級から8学級（学校全体で18学級から24学級）規模である。
- ・公立中学校3年生数の将来推移は、比較的緩やかに減少し続ける見通しである。

<北部地域（口丹、中丹、丹後地域）の状況>

- ・府立高校は広い地域に点在し、公共交通機関の運行状況によって通学に利用できる交通手段も限られるため、通学可能な範囲での選択肢は南部地域よりも限定的である。
- ・多くの府立高校において、1学年5学級以下（学校全体で15学級以下）の規模である。
- ・公立中学校3年生数の将来推移は、地域によって減少傾向に違いがあるが、今後10年間では地域全体で顕著に減少する見通しである。

学校の小規模化が進行することに伴って、一般的な全日制高校では次のような教育活動に対する課題が生じることとなる。

- ・標準・発展など生徒の進路希望や学力に対応したクラス編制や目標を絞ったクラス運営、授業での講座展開ができなくなる。
- ・習熟度別指導など学級の枠を超えた多様な指導形態をとることが難しくなる。

- ・グループで取り組む探究活動等の協働的な学習において、取り上げる課題や授業展開に制約が生じる。
- ・様々な生徒が集まり、個性の違いや多様性を認め合い、人を思いやり尊重するなどの人間関係の形成を行う機会が失われる。
- ・クラス同士や学年の枠を超えて取り組む文化祭や体育祭などの学校行事、生徒会活動や部活動が限定的になり、切磋琢磨する教育活動ができなくなる。

一方で、アンケート結果では、在籍する府立高校の魅力及び高校選択時に期待していたことについて、学習指導・進路指導の充実、学校行事（文化祭、体育祭、研修旅行等）や部活動、友人等との人間関係の構築であると生徒の多くが回答している。

1つの学校において一定規模の生徒や教職員の集団を維持することによって、次のように生徒一人一人の能力や個性を最大限伸ばすことや、活力ある教育活動の実現が可能となり、生徒の求めている府立高校の在り方に近づくものと考えられる。

- ・標準・発展など多様な講座展開や、弾力的な教育課程の編成が可能となり、生徒の進路希望や多様な学習ニーズに応じた科目選択の幅が広がる。
- ・習熟度別指導など学級の枠を超えた多様な指導形態をとることができる。
- ・グループで取り組む探究活動等の協働的な学習において、取り上げる課題や授業展開の幅が広がる。
- ・様々な個性や能力のある生徒が集まることで、生徒同士の切磋琢磨や相互啓発を通じて、集団の中でのより良い人間形成の機会が広がる。
- ・体育祭や文化祭などの学校行事や生徒会活動において活力ある取組が可能となり、多様な部活動が展開できる。

【懇話会での関連意見】

- ・中学生は高校に対して、学習内容の専門性や学校規模等の要素でのグレードアップを求めており、大きな集団による学校行事や部活動等で切磋琢磨できることが重要である
- ・高校が果たすべき役割として、生徒をどう実社会と接続させるか、人間性や社会性、キャリアデザインをどう見つけさせるかとの観点が重要である
高校教育としての質を確保するためにも一定規模の集団が必要である
- ・望ましい学校規模は、それぞれの地域特性を考慮しながら議論していく必要がある
- ・適正な学校規模の在り方は、学校の機能や役割ごとに考えることも重要である
- ・通学時間は大きな要素であり、通える範囲の地域において生徒のニーズに合った選択肢があることが重要である
- ・高校の存在意義や役割等は、地域政策ともつなげて検討することが重要である

【基本方針①】

<南部地域(京都市・乙訓地域、山城地域)>

- 1学年6学級から8学級程度(学校全体で18学級から24学級)を望ましい学校規模とし、地域内での通学利便性や学科を含む高校の設置状況、公立中学校3年生数の将来推移などを総合的に判断して、各地域内における学校の配置・役割を見直す。
ただし、一律的・機械的な平準化は行わない。

<北部地域(口丹地域、中丹地域、丹後地域)>

- 地元地域からの入学状況等も含めて総合的に判断し、更なる小規模化により生じる教育活動の課題を解消するために、各地域内における学校の配置・役割を見直す。

【基本方針②】

- 学校配置の見直しにあたっては、政府統計による高校生の平均通学時間※を目安として考慮する。ただし、北部地域など地理的状況により個別の実情がある場合には総合的に判断する。

【基本方針③】

- 設置する課程・学科等において果たすべき役割、魅力や特色をスクール・ミッション※及びスクール・ポリシー※において明確化する。これらは実施計画の策定などに合わせて改訂することがある。

なお、定時制課程、通信制課程についても同様に取り扱うこととする。

【基本方針④】

- 探究活動や地域の企業と連携したキャリア教育の企画・運営、地域人材や教育資源との連絡・調整など、府立高校と地域社会との連携・協働を担うコーディネーター※体制の整備を進める。

- 特色ある府立高校に開放型地域クラブ※を新たに設置し、中学校部活動の地域移行に
おいての活動拠点にするなど地域のスポーツ・文化芸術活動の推進につなげる。

政府統計による高校生の平均通学時間

総務省統計局「令和3年社会生活基本調査」による平日1日あたり往復時間の平均は、全国平均87分、京都府平均98分。

スクール・ミッション

各学校の存在意義や各学校に期待されている社会的役割、目指すべき学校像で、設置者が定めるもの。

スクール・ポリシー

各高等学校における高校教育の入口から出口までの教育活動に係る三つの方針（育成を目指す資質・能力に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針）で、各高等学校が定めるもの。

コーディネーター

学校が関係機関等との連携協力体制を整備するため、関係機関等との連絡調整を担う教職員以外の地域人材。

開放型地域クラブ

府立高校を拠点に学校が持つスポーツ・文化芸術活動資源を活かし、地域の中高生や成人が一体となって活動できる開放型地域クラブを創設・育成することにより、スポーツ・文化芸術活動を通じた地域コミュニティづくりに貢献するもの。

2 定時制・通信制課程の魅力化と配置等の在り方

定時制・通信制課程においては、社会情勢や時代の変化とともに、本来の設置趣旨である勤労青年に対する高校教育の機会を保障する場から、小・中学校等で不登校経験がある生徒や特別な支援を要する生徒など、多様な生徒が学ぶ場へと役割が大きく変化している。

アンケート結果からも定時制課程に在籍する生徒の多くは、少人数での学習指導等により全日制課程よりもゆったり学べることに魅力を感じており、京都フレックス学園構想*による昼間定時制単独高校には、旧来の昼間定時制高校に比べて多くの生徒が希望している。

通信制課程では、テレビ放送やインターネット等を利用するなど様々なメディアを利用した指導や自己のペースで学ぶことができるといった特長がある。

近年、これらの通信教育の特長とともに、多様な生徒の学習ニーズ、生活スタイルや価値観の多様化等を背景に、全国的に通信制高校への入学者が増加している。

【懇話会での関連意見】

- ・ 夜間定時制課程では在籍生徒数が減少し、集団での教育活動や部活動が十分に成立しない状況が課題になっている
高校卒業後の社会性を身につけるためには、丁寧な指導とともに一定規模の集団による教育環境が必要である
- ・ 全ての課程において、生徒が学び続けることができる柔軟なシステムやサポートが必要であり、フレックス学園構想の理念や成果を展開していくことが重要である
- ・ 通信制課程は学習の自由度が高く選択はしやすいが、自学自習の力不足で途中で辞めてしまう生徒もいる
公立の通信制課程の在り方は検討すべきである
- ・ 課程間での併修*や、通信制課程において、通信教育で学ぶだけでなく、通学を組み合わせるなどの新たな手法も考えられる

【基本方針】

- 京都フレックス学園構想による成果・課題を踏まえ、各地域における生徒の状況やニーズに応じて、定時制課程の配置を見直す。

その際、現在の定時制課程が果たしている役割、全日制課程との関連性等も考慮して検討する。

- 通信制課程では、通学による対面授業とICTを活用したオンライン授業によるハイブリッド型の学習、転・編入制度の弾力化、通信制課程での履修科目を全日制課程・定時制課程で単位修得可能とするなど他課程との連携を含めた、新しいシステムの構築を推進する。

京都フレックス学園構想

多様な生徒の学習ニーズに対応するため、柔軟な教育システムや社会的自立を支援する教育を柱とした構想。

課程間併修

例えば、通信制課程の生徒が、同一高校あるいは異なる高校の定時制課程において一部の単位を修得する、または定時制課程の生徒が、同一高校あるいは異なる高校の通信制課程において一部の単位を修得すること。

3 柔軟な教育システムによる魅力化

(1) 新しいスタイルの全日制高校

全日制課程には大多数の生徒が在籍しており、幅広い生徒の個性や能力、学習ニーズや様々な将来の進路選択等に応えていくことが必要である。

また、義務教育段階で個性や能力が十分に発揮できていなかった生徒など、全日制課程においても在籍する生徒は多様化している。

高等学校学習指導要領では、卒業までに修得させる単位数^{*}は 74 単位以上と規定されている。一方、全日制課程は週当たり 30 単位時間^{*}を、年間で履修することが標準とされている。全日制課程の修業年数の 3 年間に換算すると、90 単位程度履修することとなる。

全日制課程に幅広い生徒が在籍する中で、新たな学校生活への挑戦等に対して、生徒が学習意欲を高め、主体的に学びに向かえるように、卒業までに修得させる単位数を見直すなどの工夫が必要である。また、生徒が自身の個性や特異な才能を伸ばすことができる柔軟な学習スタイルや、キャリア教育の実践など特色ある学校の在り方も重要である。

【懇話会での関連意見】

- ・全日制課程では学び直しや難関大学受験を目指す生徒など、様々な生徒の実態や希望進路に対応できる多層的な学習環境が求められる
- ・教科学習以外の様々な教育活動等によって、生徒自身が将来を考えるキャリア教育の充実、学年制など既存の枠にとらわれない自由な履修の在り方も考えられる
- ・基礎的な学力が十分に定着していない生徒が安心して学べる場が必要である一方で、特別な能力のある生徒を伸ばす視点も必要である

【基本方針】

- 単位制により、卒業に必要な単位数を74単位で設定する緩やかな教育課程と、複合的な教育システムによって、生徒の将来への挑戦をサポートする新しいスタイルの全日制高校を設置する。

(想定する教育システムの例)

- ・ 2期制*により半期のみでの単位修得も可能とする
 - ・ 通学時間帯や科目の選択を可能とする
 - ・ 定通併修など異なる課程間での教科・科目等履修システムを構築する
 - ・ 通級による指導*を導入する など
- 新しいスタイルの全日制高校は、京都フレックス学園構想による昼間定時制単独高校との関係性を踏まえて、バランスの良い配置を検討する。

卒業までに修得させる単位数

高等学校学習指導要領において、74単位以上（各教科・科目及び総合的な探究の時間を必ず含む）と規定。

全日制課程における週当たりの授業時数

高等学校学習指導要領において、各教科・科目及び総合的な探究の時間に、特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事）を含めた30単位時間を標準と規定。

2期制

半年間の学期ごとに授業が完結し、単位の修得認定を行う仕組み。

通級による指導

大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部、障害に応じた特別の指導を特別な場で受ける指導形態で、障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服するため、特別支援学校学習指導要領の自立活動に相当する指導を行う。

(2) 特別支援教育の充実

全国的な特別支援教育に対する理解の浸透を背景として、本府でも特別支援学校はもとより、小・中学校や高校における特別な支援を要する児童生徒が、近年増加傾向にある。

特別な支援を要する児童生徒を取り巻く状況や中学校卒業者のほぼ全員が高校等に進学する現状からも、高校段階における特別支援教育の一層の推進は必要不可欠である。府立高校におけるインクルーシブ教育システム*の構築に向け、通級による指導の充実や特別な支援を要する生徒と共に学ぶ新たな仕組みづくりが重要である。

【懇話会での関連意見】

- ・ フレックス学園構想による高校では、通級による指導も取り入れた丁寧な指導で、生徒が順調に高校生活を送るなど非常に有効に機能している
- ・ 特別な支援を必要とするなど、様々な学びのニーズや実態に応じた適切な学びが選択できることが望ましい
- ・ 特別支援教育の視点は重要であり、教員研修等の取組も必要である

【基本方針】

- 高校教育段階での特別支援教育を充実させるため、特別支援学校高等部の分校の併設など府立高校でのインクルーシブ教育環境を構築する。また、各地域の地域支援センター*との連携を強化する。
- 府立高校での通級による指導は、京都フレックス学園構想による昼間定時制単独高校における実践や成果を検証し、拡充を図る。

インクルーシブ教育システム

人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み。

地域支援センター

京都府では、地域の学校（園）等の障害のある子どもへの教育相談等を行うために、地域の特別支援教育のセンター的機能として、特別支援学校に地域支援センターを設置している。

4 高校設置者間の協調・協議

本府では、府内の全高校（本校）数に占める私立高校の設置割合が全国2番目に高いことから、公立高校と私立高校が協調して、本府の高校教育の充実と発展に努めてきた。

近年、府内公立中学校卒業者の進路先では、府内公立高校（全日制課程）進学者は減少傾向であるのに対し、府内私立高校（全日制課程）進学者が増加するなどの進路状況の変化がみられる。

その要因の一つとして、本府独自の私立高校進学者に対する「京都府あんしん修学支援制度*」の浸透や拡充などによって、私立高校進学時の経済的負担が軽減されたことが考えられる。

中学校卒業生数の減少が今後も続く状況は、京都府、京都市、私立高校の各設置者に共通する課題であり、公私協調による本府公教育の更なる充実に向け、議論していく必要がある。

【懇話会での関連意見】

- ・府立高校だけでなく、市立高校や私立高校も含めた設置者全体で、生徒減少等の課題を考えていくべきである
- 府内の高校全体で検討することで、生徒の将来につなげていくことが重要である

【基本方針】

- 加速化する少子化への対応をはじめとする公立高校と私立高校設置者間の共通課題について、「京都府公立高等学校協議会」において、中長期的な生徒受入対策等を協議していく。

京都府あんしん修学支援制度

京都府では、私立高校の授業料に対する支援として、国が実施する「高等学校等就学支援金」の上乗せ制度として実施。

5 学校施設等の整備

学校教育に必要な機能や安全かつ快適な教育環境を確保するため、老朽化が進んでいる施設・設備等は、計画的に整備・更新を行う必要がある。

これまでから、大規模改修やトイレの洋式化など学校施設の計画的な整備を進め、また、喫緊課題の老朽化した空調設備について、普通教室等の空調設備更新を大幅に加速させるなど、安心安全な教育環境づくりに努めている。

アンケート結果においても、生徒の多くが学校施設・設備に対する改善を望んでいる。

財源等の課題はあるものの、計画的な整備を進めるとともに、教育のデジタル化による新時代の学び、地域産業を支える職業教育等の充実などといった中長期的なニーズや課題を見据えて、魅力ある学びを支える環境整備が必要である。

【懇話会での関連意見】

- ・生徒や保護者は、新しくきれいに整備された学校に対して率直に魅力を感じるので、空調やトイレなどの学校施設・設備を整備することは重要な要素の一つである

【基本方針】

- 長寿命化対策による学校施設の大規模改修等を計画的に推進する。
- 学校、学科の配置見直しなど魅力化を図る際には、合わせて学校施設・設備の重点的な整備を実施する。
- 職業学科設置校では、意欲や目的意識の高い生徒が切磋琢磨できる教育環境を充実させるため、全国からも生徒を募集できる制度、寮や産業教育設備など特色ある施設等の整備を推進する。

第3章 今後の入学者選抜の在り方

現行の入学者選抜制度は、中学生がより主体的に高校を選択し、充実した高校生活を実現できることを目指して、平成 26 年度入学者選抜において見直しを行って以降 10 年が経過したところである。

その中で、生徒や保護者の早く進路先を決定したいという想いを背景に、私立高校の入学者選抜を経て、公立高校の前期選抜は受検するものの、不合格となった場合には中期選抜は受検せずに進路を決定するといった状況変化がみられる。

また、学科等によって前期選抜・中期選抜の募集割合や志願できる地域が異なり複雑であるといった指摘がある。

さらに、入学者選抜の実施日程について、前期選抜と中期選抜間の期間が短いことや、前期選抜から後期選抜までの長期間にわたり入学者選抜を実施する学校では年度末の業務繁忙期と重なるなど新たな課題も生じている。

【懇話会での関連意見】

- ・現在の入学者選抜制度は、何度もチャンスはあるが、一方で生徒や保護者にとっては分かりにくい制度である
- ・入学者選抜制度において、生徒の多様性を踏まえ、検査項目を選べたり学力検査以外にウエイトを置いたりするなど、生徒それぞれの特性や特長を活かせる仕組みづくりも重要である

【基本方針】

- 現行の入学者選抜における成果と課題を、京都府教育委員会及び京都市教育委員会が連携して、関係する公立中学校・高等学校の代表者と検証・整理した上で、よりよい入学者選抜制度にするための検討を進める。

なお、見直しを実施する場合には、その対象となる中学生にとって、進路選択等に一定の準備期間が必要になることに配慮し、できる限り早期に実施時期を示すこととする。

府内公立・国立・私立高校の設置学科等一覧

地域	学校名	設置	全 日 制								定時制	通信制	中高一貫	関連大学等				
			学科種別															
			普通科	普通科系専門	農業	工業	商業	水産	その他 (情報、福祉、体育、音楽、美術、看護、国際関係)	総合学科								
京 都 市 ・ 乙 訓	山城	府	単位制	文理総合 (単位制)														
	清明	府									昼間 二部							
	鴨沂	府	○															
	洛北	府	単位制	サイエンス (単位制)												○		
	北稜	府	○															
	朱雀	府	○									夜間	○					
	洛東	府	○															
	鳥羽	府	単位制	グローバル (単位制)								夜間						
	嵯峨野	府	○	京都こすもす														
	北嵯峨	府	○															
	桂	府	○		植物クリエイト 園芸ビジネス													
	洛西	府	○															
	桃山	府	○	自然科学								夜間						
	東稜	府	○															
	洛水	府	○															
	京都すばる	府						起業創造 企画		情報科学								
	向陽	府	○															
	乙訓	府	○							スポーツ健康科学								
	西乙訓	府	○															
	府立計	19校		17	5	1	0	1	0	2	0	4	1	1	0			
	市	紫野	市	○	アカデミア													
		堀川	市	○	人間探究 自然探究													
		西京	市		エンタープライジング											○		
		美術工芸	市							美術工芸								
		京都堀川音楽	市							音楽								
		日吉ヶ丘	市	単位制														
		開建	市	ルミノベーション														
		京都工学院	市		7D7E7理数		プロジェクト工学											
		京都奏和	市										昼間 夜間 四部					
市立計		9校		4	4	0	1	0	0	2	0	1	0	1	0			
京都教育大学附属	国	○												○	○			
公立・国立合計	29校		22	9	1	1	1	0	4	0	5	1	3	1				
私	一燈園	私	○												○			
	大谷	私	○												○	○		
	華頂女子	私	○													○		
	京都外大西	私	○													○		
	京都光華	私	○													○	○	
	京都国際	私	○													○		
	京都産業大学附属	私	○													○	○	
	京都女子	私	○	ウイステリア												○	○	
	京都精華学園	私	○							美術						○		
	京都成章	私	○										○			○		
	京都聖母学院	私	○													○		
	京都先端科学大学附属	私	○													○	○	
	京都橘	私	○													○	○	
	京都西山	私	○										○			○		
京都文教	私	○													○	○		

府内公立・国立・私立高校の設置学科等一覧

地域	学校名	設置	全 日 制							その他 (情報、福祉、体 育、音楽、美術、書 画、国際関係)	総合学科	定時制	通信制	中高 一貫	開通 大学 等
			学科種別												
			普通科	普通科系専 門	農業	工業	商業	水産							
京 都 市 ・ 乙 訓	京都美山	私										○			
	京都つくば開成	私										○			
	京都芸術大学附属	私										○		○	
	京都明德	私	○					商業						○	
	京都両洋	私	○												
	同志社	私	○										○	○	
	同志社女子	私	○										○	○	
	ノートルダム女学院	私	○										○	○	
	花園	私	○										○	○	
	東山	私	○										○	○	
	平安女学院	私	○										○	○	
	洛星	私	○										○		
	洛南	私	○										○		
	洛陽総合	私								総合学科					
	立命館	私	○										○	○	
	龍谷大学付属平安	私	○										○	○	
私立計	31校	27	1	0	0	1	0	2	1	0	5	21	21		
公国私合計	60校	49	10	1	1	2	0	6	1	5	6	24	22		
山 城	東宇治	府	○												
	菟道	府	○												
	城南菱創	府	単位制	教養科学 (単位制)											
	城陽	府	○												
	西城陽	府	○												
	京都八幡	府	総合選択制	人間科学[南]						介護福祉[南]					
	久御山	府	○												
	田辺	府	○			工学探究 機械技術 電気技術 自動車									
	木津	府	○		システム園芸		情報企画								
	南陽	府	○	サイエンスリサーチ									○		
	府立計	10校	10	3	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	
	京都芸術	私							美術				○		
	京都廣学館	私	○												
	京都翔英	私	単位制												
同志社国際	私	○										○	○		
立命館宇治	私	○										○	○		
私立計	5校	4	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	2		
公私合計	15校	14	3	1	1	1	0	2	0	0	1	3	2		
口 丹	北桑田	府	○		京都フォレスト							分校 昼間			
	亀岡	府	単位制	探究文理 (単位制)											
	南丹	府							総合学科						
	園部	府	○										○		
	農芸	府			農業生産 園芸技術 環境創造										
	須知	府	○		食品科学										
	府立計	6校	4	1	3	0	0	0	0	1	1	0	1	0	
	京都聖力タリナ	私	○						看護						
私立計	1校	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
公私合計	7校	5	1	3	0	0	0	1	1	1	0	1	0		

府内公立・国立・私立高校の設置学科等一覧

地域	学校名	設置	全 日 制							その他 (情報、福祉、体 育、音楽、美術、書 画、国際関係)	総合学科	定時制	通信制	中高 一貫	関連 大学 等
			学科種別												
			普通科	普通科系専 門	農業	工業	商業	水産							
中 丹	綾部	府	○		農業〔専〕 園芸〔専〕 農芸化学〔専〕						分校 夜間 分校 昼間			○	
	福知山	府	○	文理科学											
	工業	府				機械テクノロジー ロボット技術 電気テクノロジー 環境テクノロジー 情報テクノロジー									
	大江	府								地域創生					
	東舞鶴	府	○								分校 夜間				
	西舞鶴	府	○	理数探究									○		
	府立計	6校	4	2	1	1	0	0	0	1	3	1	1	0	
	京都共栄学園	私	○										○	○	
	福知山淑徳	私								総合学科					
	福知山成美	私	○					商業							
	日星	私	○						看護						
私立計	4校	3	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0		
公私合計	10校	7	2	1	1	1	0	1	2	3	2	2	0		
丹 後	宮津天橋(宮津)	府	単位制			建築 (単位制)									
	宮津天橋(加悦谷)	府	単位制												
	海洋	府						海洋科学 海洋工学 海洋資源							
	峰山	府	○			機械製造									
	丹後緑風(網野)	府	単位制					企画経営 (単位制)							
	丹後緑風(久美浜)	府		みらいクリエイ (単位制)	777サイエンス (単位制)										
	清新	府								昼間					
	府立計	7校	4	1	1	2	1	1	0	0	1	0	0	0	
	京都暁星	私	○												
	私立計	1校	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
公私合計	8校	5	1	1	2	1	1	0	0	1	0	0	0		
総 計	公立合計	57校	43	16	7	5	3	1	5	2	10	2	5	0	
	国立合計	1校	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	私立合計	42校	36	1	0	0	2	0	5	2	0	7	24	23	
	国公私総計	100校	80	17	7	5	5	1	10	4	10	9	30	24	

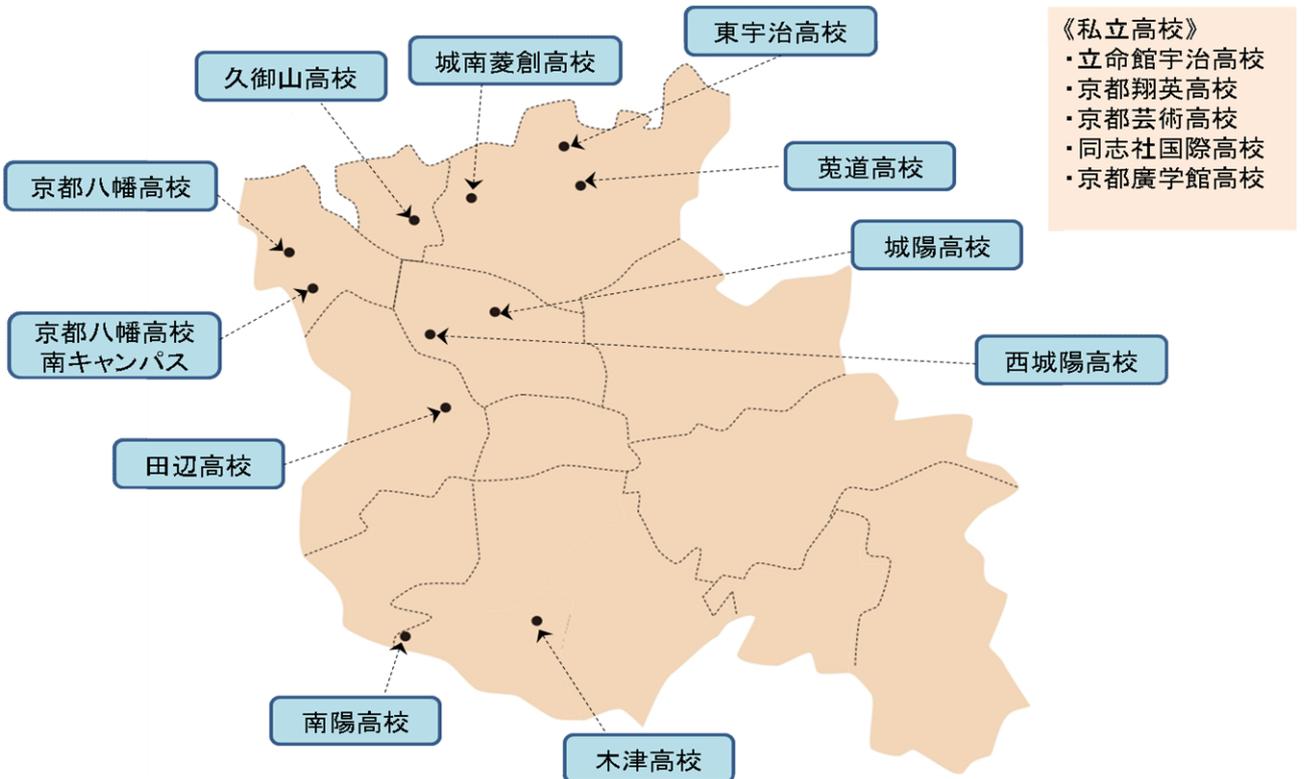
※令和5年度入学者選抜実施校を掲載

※令和5年度京都府公立高等学校募集定員一覧、令和5年度京都府私立高等学校生徒募集一覧等を基に高校改革推進室まとめ

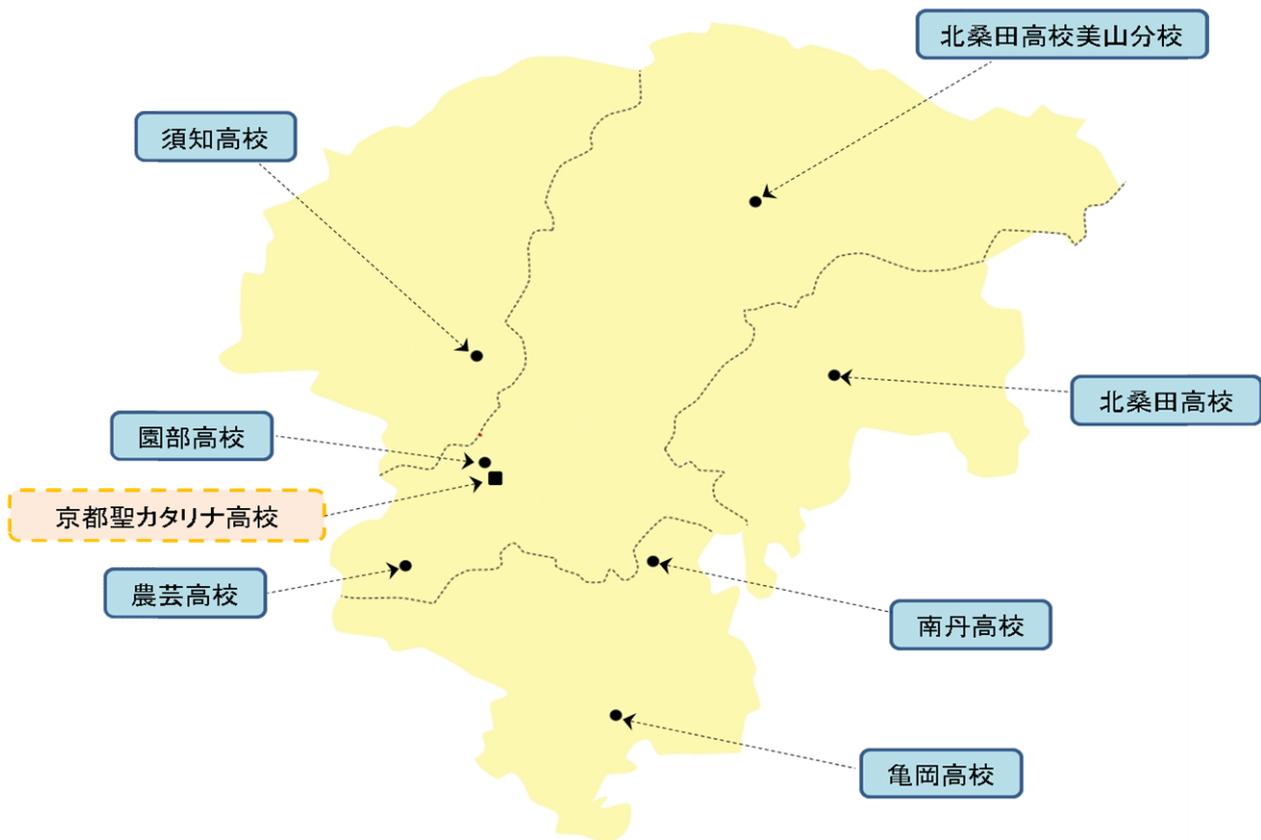
京都市・乙訓地域の高校の配置



山城地域の高校の配置



口丹地域の高校の配置



中丹地域の高校の配置

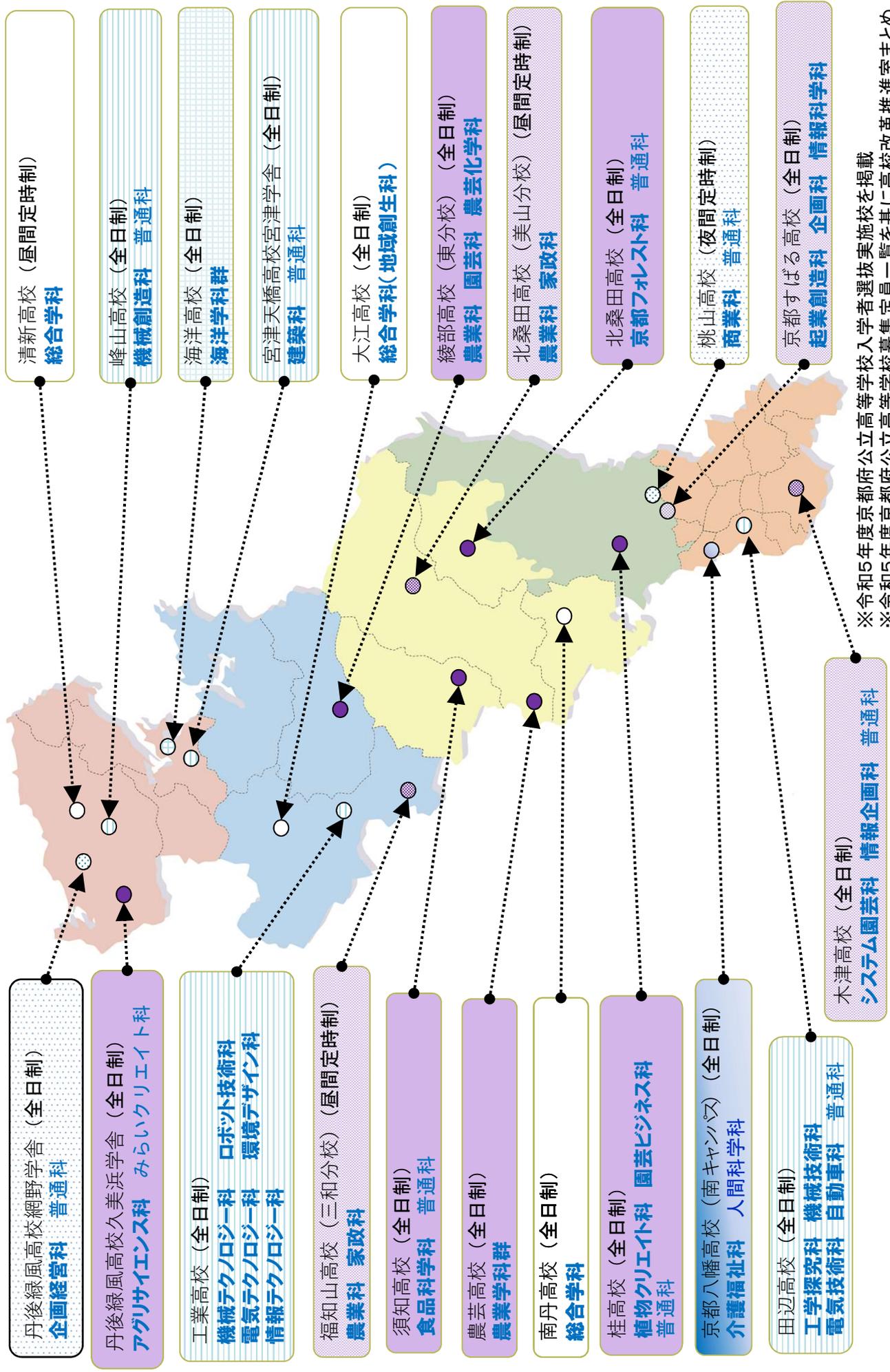


丹後地域の高校の配置



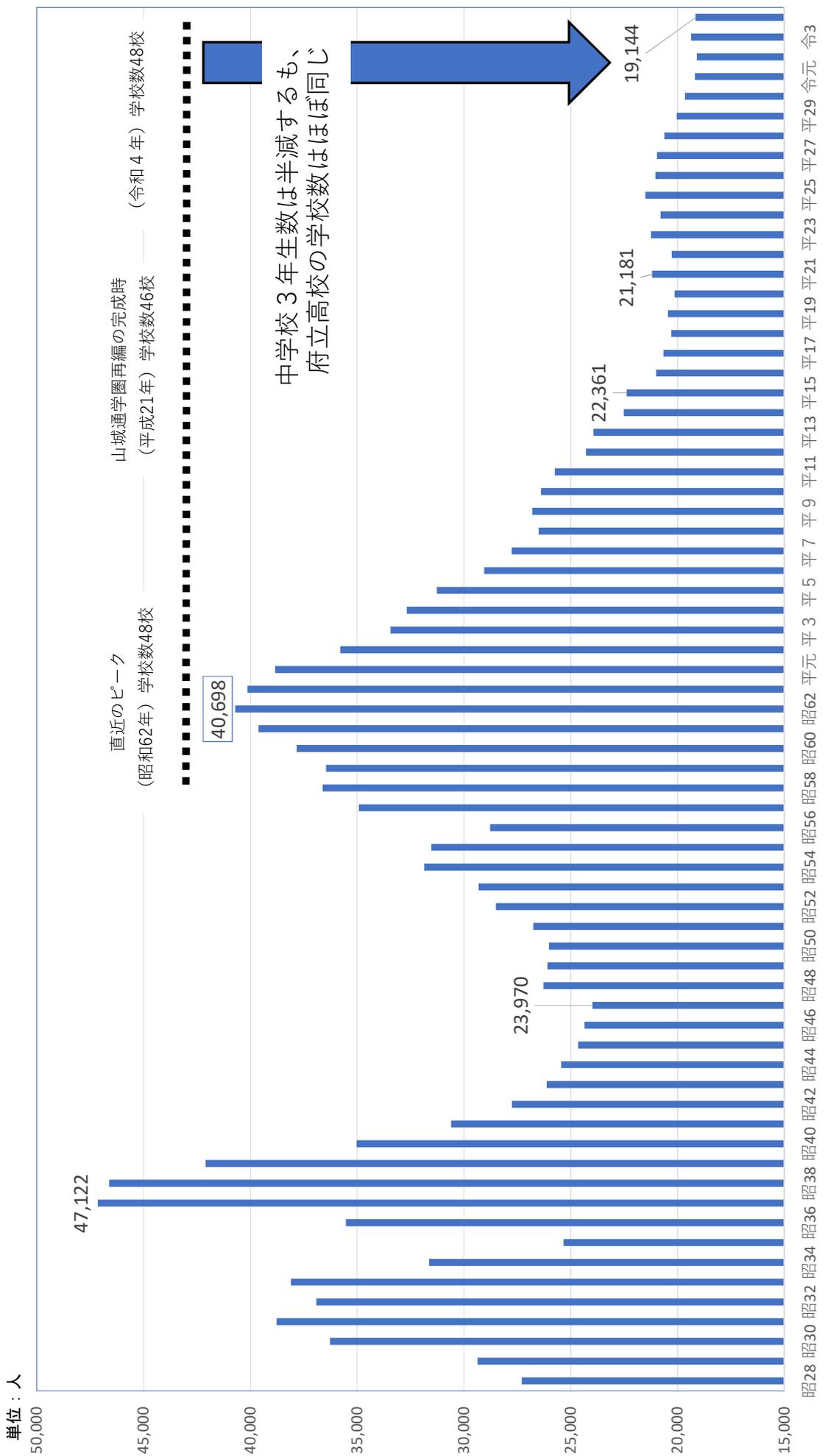
※各校の所在地を基に高校改革推進室まとめ

府立高校における職業教育を主とする専門学科・総合学科設置状況等



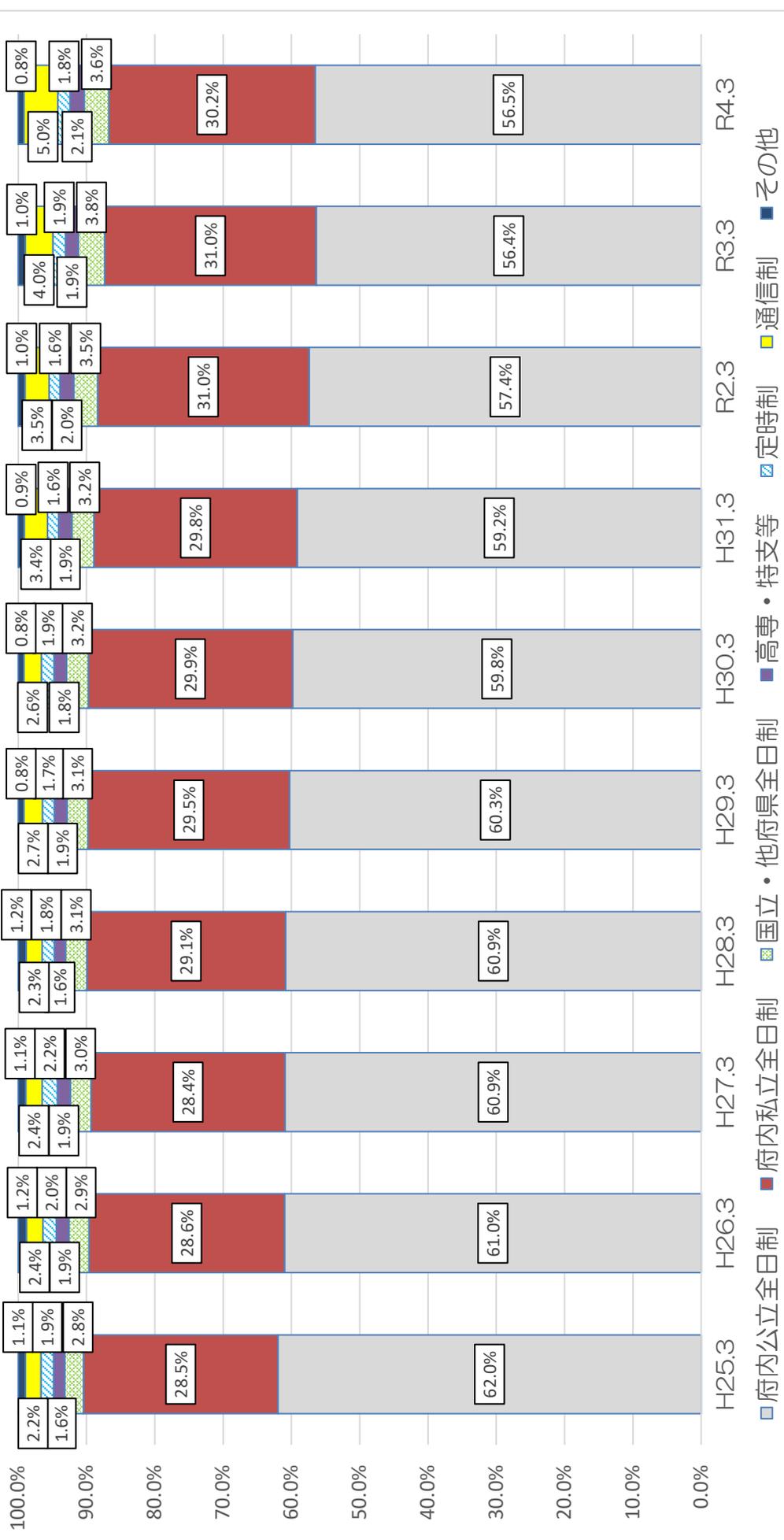
※令和5年度京都府公立高等学校入学者選抜実施校を掲載
※令和5年度京都府公立高等学校募集定員一覧を基に高校改革推進室まとめ

府内公立中学校3年生数の推移（昭和28年～令和4年）



※学校基本調査を基に高校改革推進室まとめ

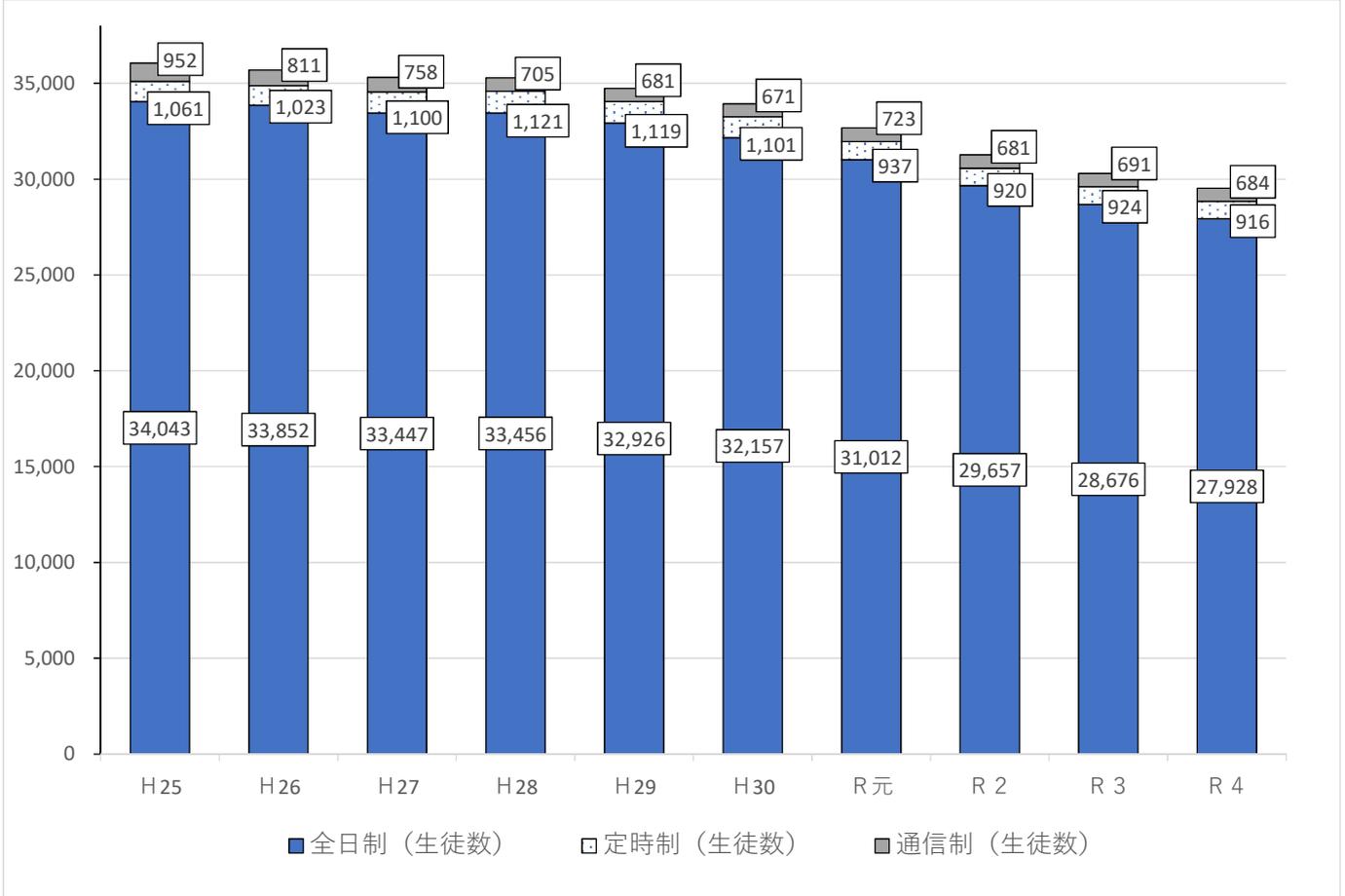
府内公立中学校卒業者の進路状況



※各年度の合計は、端数処理の関係上、100%にならない場合がある。

※学校基本調査を基に高校改革推進室まとめ

府立高校における課程別生徒数の状況

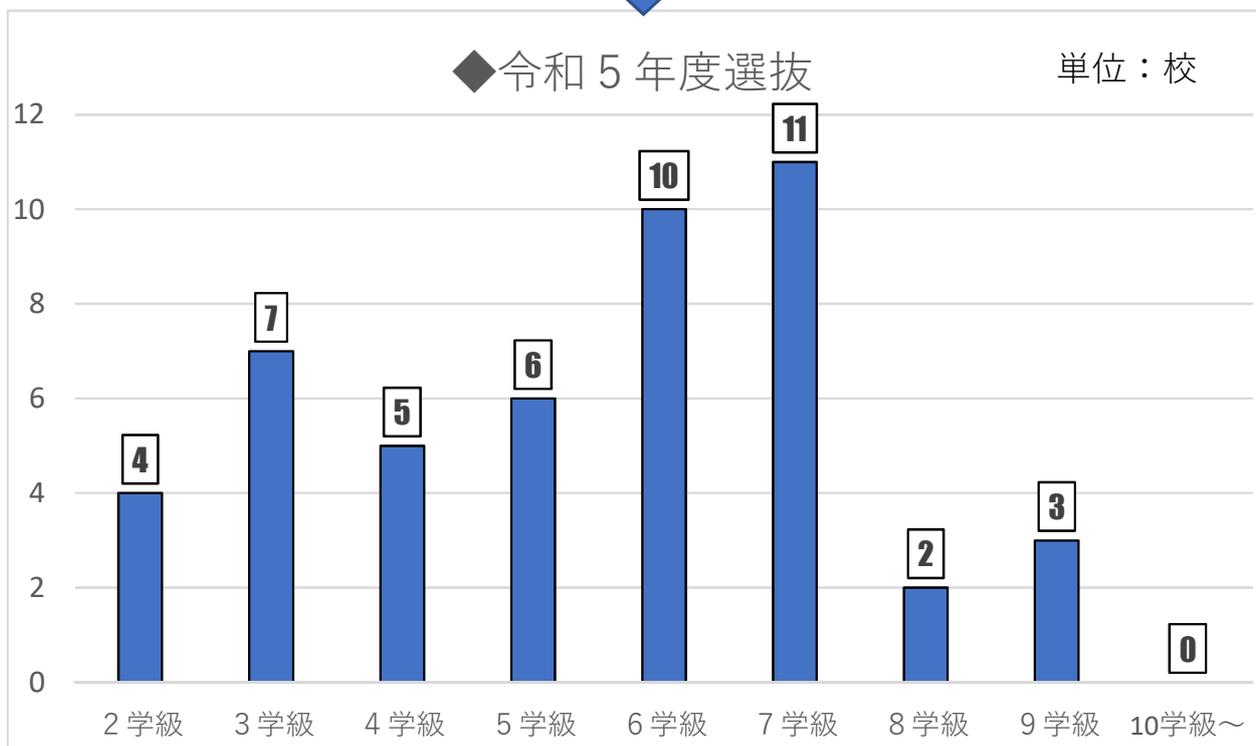
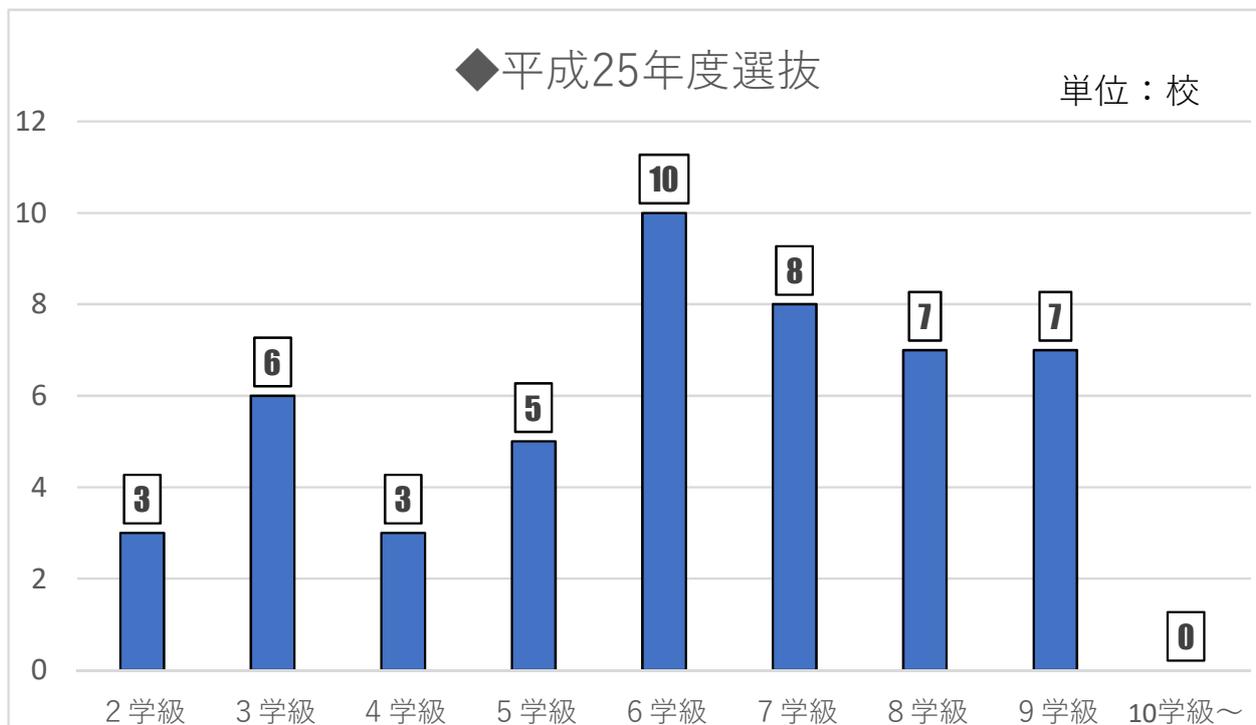


生徒数と全体比 及び増減率 (H25基準)		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
全日制 課程	生徒数(人)	34,043	33,852	33,447	33,456	32,926	32,157	31,012	29,657	28,676	27,928
	全体比	94.4%	94.9%	94.7%	94.8%	94.8%	94.8%	94.9%	94.9%	94.7%	94.6%
	増減率	100.0%	99.4%	98.2%	98.3%	96.7%	94.5%	91.1%	87.1%	84.2%	82.0%
定時制 課程	生徒数(人)	1,061	1,023	1,100	1,121	1,119	1,101	937	920	924	916
	全体比	2.9%	2.9%	3.1%	3.2%	3.2%	3.2%	2.9%	2.9%	3.1%	3.1%
	増減率	100.0%	96.4%	103.7%	105.7%	105.5%	103.8%	88.3%	86.7%	87.1%	86.3%
通信制 課程	生徒数(人)	952	811	758	705	681	671	723	681	691	684
	全体比	2.6%	2.3%	2.1%	2.0%	2.0%	2.0%	2.2%	2.2%	2.3%	2.3%
	増減率	100.0%	85.2%	79.6%	74.1%	71.5%	70.5%	75.9%	71.5%	72.6%	71.8%
生徒数全体(人)		36,056	35,686	35,305	35,282	34,726	33,929	32,672	31,258	30,291	29,528

※学校基本調査を基に高校改革推進室まとめ

府立高校の第1学年学級数（学級規模）の状況

○府立高校(全日制)における第1学年の募集定員による学級数別学校数の変化



※全日制の分校も1校としてカウント

※京都府公立高等学校募集定員一覧等を基に高校改革推進室まとめ

公立中学校3年生数・府立高校全日制募集定員推計（京都市・乙訓地域）

■地域内の公立中学校3年生数推計

年度	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和16年
選抜年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	17年度
	中3								小1	
京都市	9,284	9,219	9,013	9,039	8,889	8,667	8,645	8,482	8,579	7,401
向日市	507	457	464	504	461	433	480	490	490	547
長岡京市	712	729	694	707	696	700	731	686	729	623
大山崎町	137	144	130	126	147	122	133	155	137	180
京都市・乙訓 計	10,640	10,549	10,301	10,376	10,193	9,922	9,989	9,813	9,935	8,751
(対R5選抜比)		△ 91	△ 339	△ 264	△ 447	△ 718	△ 651	△ 827	△ 705	△ 1,889

■地域内の府立高校全日制募集定員推計

年度				令和4年度	令和12年度		令和16年度					
選抜年度				5年度	13年度		17年度					
高校名	所在地	設置年度	学科名	定員	定員等	R5選抜比	定員等	R5選抜比				
山城	北区	S23	普通科、文理総合科	9 cl 360	△8~9cl 規模		△21~22cl 規模					
鴨沂	上京区	S23	普通科	6 cl 240								
洛北	左京区	S25	普通科、普通科スポーツ総合専攻 中高一貫	7 cl 280								
北稜		S55	普通科	6 cl 240								
朱雀	中京区	S23	普通科	5 cl 200								
洛東	山科区	S29	普通科	6 cl 240								
鳥羽	南区	S59	普通科、普通科スポーツ総合専攻 グローバル科	7 cl 280								
嵯峨野	右京区	S25	普通科、京都こすもす科	8 cl 320								
北嵯峨		S50	普通科	7 cl 280								
桂	西京区	S23	普通科 植物クリエイト科、園芸ビジネス科	9 cl 360								
洛西		S55	普通科	7 cl 280								
桃山	伏見区	S23	普通科、自然科学科	9 cl 360								
東稜		S52	普通科	6 cl 240								
洛水		S53	普通科	4 cl 160								
京都すばる		S60	起業創造科、企画科、情報科学科	7 cl 280								
向陽	向日市	S50	普通科	5 cl 200								
乙訓	長岡京市	S39	普通科、スポーツ健康科学科	6 cl 240								
西乙訓		S59	普通科	4 cl 160								
定員等計(a)				118 cl 4,720					4,390	△ 330	3,870	△ 850
当該地域の公立中3生数(b)				10,640					9,935	△ 705	8,751	△ 1,889
割合(a/b)				44.4%	44.2%		44.2%					

公立中学校3年生数・府立高校全日制募集定員推計（山城地域）

■地域内の公立中学校3年生数推計

年度	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	(人)	
選抜年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	16年度	17年度
	中3								小1		
宇治市	1,605	1,526	1,478	1,448	1,423	1,360	1,307	1,315	1,258	956	
城陽市	569	609	595	606	563	560	538	536	543	453	
八幡市	566	509	565	524	521	463	439	477	405	335	
京田辺市	704	665	651	673	708	663	660	662	649	639	
久御山町	149	131	128	122	110	93	102	99	107	89	
井手町	54	40	46	47	37	50	42	35	32	31	
宇治田原町	66	63	67	73	72	57	71	60	51	42	
木津川市	887	930	806	859	862	893	827	832	829	828	
精華町	342	332	346	340	299	316	311	299	313	237	
和束町	18	12	25	17	22	16	15	15	14	13	
笠置町・南山城村	19	15	13	18	18	13	13	9	11	17	
山城計	4,979	4,832	4,720	4,727	4,635	4,484	4,325	4,339	4,212	3,640	
(対R5選抜比)		△ 147	△ 259	△ 252	△ 344	△ 495	△ 654	△ 640	△ 767	△ 1,339	

■地域内の府立高校全日制募集定員推計

年度				令和4年度		令和12年度		令和16年度					
選抜年度				5年度		13年度		17年度					
高校名	所在地	設置年度	学科名	定員		定員等	R5選抜比	定員等	R5選抜比				
東宇治	宇治市	S49	普通科	7 cl	280	△9~10cl 規模	△390	1,920	△710				
菟道		S60	普通科	7 cl	280								
城南菱創		H21	普通科、教養科学科	6 cl	240								
城陽	城陽市	S47	普通科	7 cl	280								
西城陽		S58	普通科、普通科スポーツ総合専攻	7 cl	280								
京都八幡	八幡市	H19	普通科	4 cl	160								
京都八幡(南)		H19	人間科学科、介護福祉科	2 cl	60								
久御山	久御山町	S55	普通科、普通科スポーツ総合専攻	6 cl	240								
田辺	京田辺市	S38	普通科、工学探究科、機械技術科 電気技術科、自動車科	8 cl	290								
木津	木津川市	S23	普通科 システム園芸科、情報企画科	6 cl	240								
南陽		S61	普通科、サイエンスリサーチ科 中高一貫	7 cl	280								
定員等計(a)				67 cl	2,630					2,240	△ 390	1,920	△ 710
当該地域の公立中3生数(b)					4,979					4,212	△ 767	3,640	△ 1,339
割合(a/b)					52.8%	53.2%		52.7%					

公立中学校3年生数・府立高校全日制募集定員推計（口丹地域）

■地域内の公立中学校3年生数推計

年度	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	(人)	
選抜年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	令和16年	
	中3								小1		
京都市右京区 (旧京北町)	37	32	27	31	21	23	19	17	23	12	
亀岡市	763	785	741	792	706	732	694	715	673	561	
南丹市	281	259	264	284	291	261	261	237	253	203	
京丹波町	82	81	82	74	63	67	72	63	61	39	
口丹計	1,163	1,157	1,114	1,181	1,081	1,083	1,046	1,032	1,010	815	
(対R5選抜比)		△6	△49	18	△82	△80	△117	△131	△153	△348	

■地域内の府立高校全日制募集定員推計

年度				令和4年度	令和12年度		令和16年度	
選抜年度				5年度	13年度		17年度	
高校名	所在地	設置年度	学科名	定員	定員等	R5選抜比	定員等	R5選抜比
北桑田	右京区	S23	普通科、京都フォレスト科	3 cl 90				
亀岡	亀岡市	S23	普通科、普通科美術・工芸専攻 探究文理科	7 cl 270				
南丹		S54	総合学科	5 cl 170				
園部	南丹市	S23	普通科、中高一貫	4 cl 160				
農芸		S58	農業生産科、園芸技術科 環境創造科	3 cl 100				
須知	京丹波町	S23	普通科、食品科学科	3 cl 90				
定員等計(a)				25 cl 880	770	△110	620	△260
当該地域の公立中3生数(b)				1,163	1,010	△153	815	△348
割合(a/b)				75.7%	76.2%		76.1%	

公立中学校3年生数・府立高校全日制募集定員推計（中丹地域）

■地域内の公立中学校3年生数推計

年度	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	(人)	
選抜年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	16年度	17年度
	中3								小1		
綾部市	257	249	249	260	215	240	202	206	200		153
福知山市	696	692	678	673	681	629	682	657	627		570
舞鶴市	667	689	691	622	646	619	628	577	605		465
中丹計	1,620	1,630	1,618	1,555	1,542	1,488	1,512	1,440	1,432		1,188
(対R5選抜比)		10	△ 2	△ 65	△ 78	△ 132	△ 108	△ 180	△ 188		△ 432

■地域内の府立高校全日制募集定員推計

年度				令和4年度	令和12年度		令和16年度	
選抜年度				5年度	13年度		17年度	
高校名	所在地	設置年度	学科名	定員	定員等	R5選抜比	定員等	R5選抜比
綾部	綾部市	S23	普通科、普通科スポーツ総合専攻	6 cl 220	△ 3~4cl 規模	△ 130	810	△ 300
綾部(東)		S23	農業科、園芸科、農芸化学科	2 cl 60				
福知山	福知山市	S23	普通科、文理科学科、中高一貫	6 cl 240				
工業		S38	機械テクノロジー科、ロボット技術科 電気テクノロジー科、環境デザイン科 情報テクノロジー科	5 cl 180				
大江		S23	地域創生科	3 cl 90				
東舞鶴	舞鶴市	S23	普通科	3 cl 120				
西舞鶴		S23	普通科、理数探究科	5 cl 200				
定員等計(a)				30 cl 1,110	980	△ 130	810	△ 300
当該地域の公立中3生数(b)				1,620	1,432	△ 188	1,188	△ 432
割合(a/b)				68.5%	68.4%		68.2%	

公立中学校3年生数・府立高校全日制募集定員推計（丹後地域）

■地域内の公立中学校3年生数推計

年度	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	(人)
選抜年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	令和16年
	中3								小1	
宮津市	130	118	112	125	112	113	101	104	100	72
伊根町	11	9	10	18	9	12	20	12	15	20
与謝野町	165	160	163	150	141	129	143	142	131	109
京丹後市	436	441	409	364	380	390	378	389	396	353
丹後計	742	728	694	657	642	644	642	647	642	554
(対R5選抜比)		△ 14	△ 48	△ 85	△ 100	△ 98	△ 100	△ 95	△ 100	△ 188

■地域内の府立高校全日制募集定員推計

年度				令和4年度	令和12年度		令和16年度	
選抜年度				5年度	13年度		17年度	
高校名	所在地	設置年度	学科名	定員	定員等	R5選抜比	定員等	R5選抜比
宮津天橋(宮津)	宮津市	R2	普通科、建築科	4 cl 150	△2~3cl 規模	△ 85	490	△ 165
宮津天橋(加悦谷)	与謝野町	R2	普通科	2 cl 80				
海洋	宮津市	S23	海洋科学科、海洋工学科、海洋資源科	3 cl 95				
峰山	京丹後市	S23	普通科、機械創造科	5 cl 190				
丹後緑風(網野)		R2	普通科、企画経営科	3 cl 90				
丹後緑風(久美浜)		R2	アグリサイエンス科 みらいクリエイト科	2 cl 50				
定員等計(a)				19 cl 655	570	△ 85	490	△ 165
当該地域の公立中3生数(b)				742	642	△ 100	554	△ 188
割合(a/b)				88.3%	88.8%		88.4%	

※学校基本調査、京都府保健福祉統計、京都府公立高等学校募集定員一覧等を基に高校改革推進室まとめ